

未来に生きて働く資質・能力を育てる ESD 教育

北海道教育大学附属札幌小学校
校長 戸田 まり
担当者 三田村 剛

1 本校の ESD の特徴

本校は「共生の文化を創造する学校」という教育目標を掲げ、長年に渡り周囲の自然環境を生かした環境教育を実践してきた。ここ数年間では、学校近くを流れる茨戸川（ばらとがわ）や大学周辺の緑道（周囲約 3 km）での自然体験や観察を行い、身近な自然に親しんでいる。また、稲（米）の栽培と収穫を通じた学習を行い、自然環境と食糧生産について学ぶ機会としてきた。

2007 年からは教育大学と連携し、JICA 理数科教育プロジェクトで日本を訪れた研修員（学校教員）を受け入れ、各学年の発達段階に沿ってそれぞれの国や地域についての学習を進め、実際に交流することで多様な社会の在り方を学ぶ機会としている。

2013 年には、防災教育の一環として「命と安全を守る授業」や、防災宿泊訓練（隔年）や引き取り訓練などを実施している。また、2015 年からは環境教育にエネルギー教育を取り入れ、身近な生活から環境問題を捉えるようにしてきている。

2 活動全体計画

これまでの学習活動を関連付けて教育課程に位置付けることで、それぞれの学びを一層充実させ、環境の尊重、人間の尊重、多様性の尊重など、ESD で育てたい力の育成を図っている。

環境教育

1 年生【生活科】

「附属の森を探検しよう」

学校周辺の自然豊かな森で、四季を通じて動植物や自然と関わる。

2 年生【生活科】

「水の中の生き物を見つけよう」

「水族館を開こう」

水生生物の観察、採集、飼育する活動から生き物の習性や成長に気付く。

3 年生【総合的な学習の時間】

「あいの里の自然」

自然豊かな地域の自然からその魅力に気づき、自然愛護の心情を育む。

4 年生【理科】「季節と生き物」

動植物の観察、栽培等を通じて、生物を愛護する態度と動植物と環境との関わりについての見方や考え方を養う。

5 年生【総合的な学習の時間＋社会科】

「食を極める～米を作ろう～」

稲作体験を通じて、主食である米の大切さと自然の恵みや農家の人々に感謝する心情を養う。

6 年生【理科】

「植物のつくりと体」「生物のすむ環境」

生命を尊重する態度や環境を保全する態度を育て、生物同士のつながりや生物と環境との関わりについての見方や考え方を養う。

防災教育

全学年【特別活動】「命と安全を守る授業」

年間 5 回、全校一斉にテーマを決め（地震、火事などの災害、いじめ、交通事故、不審者対応、ネットモラル等）実施。

「防災宿泊訓練」隔年で 3 年生以上が宿泊防災訓練を実施。

「防災引取訓練」保護者による児童のお迎えを想定し毎年実施。

国際理解教育

1・2 年生【外国語活動＋特別活動】

「Hello English」「JICA の先生と友達になろう」

基本的な挨拶や自己紹介の仕方を知り、ALT や JICA 研修生との交流から世界の国々や文化への関心を高める。

3・4 年生【英語＋特別活動】

「Hi, friends I」「JICA の先生と仲よしになろう」

基本的な英語の音声や表現に親しみ、ALT や JICA 研修生との交流から簡単な文でコミュニケーションできる素地を養う。

5・6 年生【英語】

「Hi, friends II」「JICA の先生と仲よしになろう」

基本的な英語の音声や表現についての進展を図り、ALT や JICA 研修生との交流の中で簡単な意見や感想を述べるなどコミュニケーションの基礎を養う。

エネルギー教育

3～6 年生【理科】【総合的な学習】

エネルギー事情や地球環境に関わる 4 つの課題（エネルギー安定供給の確保、地球温暖化問題とエネルギー問題、多様なエネルギー源とその特徴、省エネルギーに向けた取組）を教育課程に位置付け、子どもが自分ごととしてエネルギー問題に関わろうとする意識を高めていく。

3 活動事例

環境教育

2年生「水の中の生き物を見つけよう

～茨戸川探検～

学校近くを流れる茨戸川へ2回行き、水の生き物を採集してきます。2回目の探検では、1回目の川の様子や生き物の様子との違いなど、川の様子が日々変化していることに気付いていきました。

自然と触れ合い、自然と「対話」することで得られる気付きや興味は、今後の環境への意識や理科などの学習意欲の高まりにつながっていくと考えます。

採集した生き物は、教室で大事に育て、「水族館」として全校児童に見せたり、生き物の生態などを説明する活動を行ったりしました。



防災教育

【命と安全を守る授業】

4年生

「こんな時どうする？」



一人で留守番をしている時に不審な電話がかかってきた場合に、どのような対応をすればよいのかについて、具体的な例を挙げながら考えていきました。各家庭で指導されていることを交流する中で、今まで知らなかった対応についても学ぶこととなりました。

他の学年でも、同様の授業を展開し、安全に生活する方法について学んでいます。

国際理解教育

5・6年生

「Hi, friends II」

「JICAの先生と

仲よしになろう」



英語では、「小学校英語の導入と中学校との接続に関する研究」の一環として、隣にある附属中学の英語教師による授業を高学年で実施しています。

国際交流として、JICA研修生との交流のほか、留学生との交流等、外国人との触れ合いを多くもつことにより、文化の違いや多様性を尊重する姿勢が少しずつ身につけてきています。



エネルギー教育 5年生「ベストミックス」

北海道のエネルギー利用について考える授業を通して、様々な状況を想定したり、エネルギーに関する事情について確認したりすることを通して、これから先、エネルギー問題にどう向き合っていけばよいのかを考えるきっかけとしていきました。どれか一つに頼ると問題が大きくなってしまふから、バランスを考えた方がよいという考えに至りました。



4 成果と課題

環境教育

成果) 環境に関する内容は、複数の教科を関連させることで、生活に生きて働く知識や技能として定着してきている。

課題) 1年生から6年生までの系統性を今以上に考えた指導を展開することで、更に環境問題への意識を向けていけると考えている。

防災教育

成果) 全校一斉に取り組むことで、防災教育に関する職員の意識の高まりが見られ、指導内容の充実へ向けて意欲的に取り組むことで、児童の理解がより深くなっている。

課題) より切実感のある話題を取り上げた授業を展開したり、災害の想定をより現実的にしたりするなど、現実に対応した授業改善を図る必要がある。

国際理解教育

成果) 外国語や外国の文化に数多く触れることで、違いを尊重する姿勢が身に付いてきている。英語の授業の充実により、英語によるコミュニケーション力も高まっている。

課題) JICA研修生や留学生の受け入れはそう多くはないので、機会を見つけて外国語の文化に触れるような場を設定していく必要がある。

エネルギー教育

成果) 身近にあるエネルギー問題への興味・関心が高まってきている。見方を少し変えるだけで様々な考えをもつことができるという学びが非常に効果的である。

課題) エネルギー問題への職員の意識を今以上に高め、指導の充実につなげていきたい。